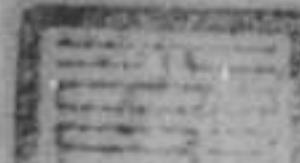


皇分八三



立案 明治 三十 年 十月 廿 二 日
決裁 明治 三十 年 月 日

爵位頭 久藤

秘書課長



大臣

秘書課長



勳務課長



次官

海軍少將 從四位 勳三等 山崎景則 特旨 叙位ノ件

官 内 省

明治三十一年十月廿二日
官報

裏面白紙



海軍少將從四位勳三等山崎景則
特旨ヲ以テ位一級被進
從四位勳三等山崎景則

敘正四位

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治四十二年十月二十二日

内閣

内閣總理大臣侯爵桂太郎

官印
内
一一〇

明治三十三年十月廿二日

内閣書記官



内閣總理大臣 

内閣書記官長 

海軍少將從四位勳三等山崎景則ハ多年軍務ニ従事シ勤勞木少候處目下病氣危篤ノ趣ニ付叙位進階内則第四條ニ依リ特旨ヲ以テ位一級進ノラルヘキ旨上奏相成然ルヘシ

裏面白紙

海軍少將從四位勳三等山崎景則

叙正四位

右謹テ奏ス

明治四十二年十月二十二日
海軍大臣男爵齋藤

實



海軍

明治四十二年十月二十二日

海軍大臣男爵齋藤實

内閣總理大臣侯爵桂 太郎殿

山崎海軍少將、明治四年五月十九日任
 海軍大尉同二十六年五月二十四日豫備役
 被仰付、至間軍職、身ヲ委スルコト二
 十有二年、久キニ及ヒ其間第二丁飛鳳翔、
 東、日進、攝津、龍驤、比叡、高千穂、扶桑
 等艦長トシテ克ク其任務ヲ盡シ其後
 明治二十一年八月海軍省軍務局次長ニ補

海軍

セラレシ以来兵軍港司令官及ヒ海軍兵學
 校長等ニ轉シ終始重役ニ在リテ勤勞不
 貲殊ニ佐賀、熊本、山口、鹿児島、逆徒征討
 ニ從事シ勤切ヲ奏シ在險中、切實顯著
 ナルニ、ニ度、過般病ニ罹リ今ヤ危ハ馬ニ陷
 到底存命賞束ナク付、其際特ニ位一
 級進メラレ度文武官叙位進階内則第一
 回条ニ依リ別紙上奏書進達ス